

講習報告書

京都田辺山友会

報告者 森本

講習名	2025年度積雪期搬出技術講習会	主催	京都労山
場所	比良イン谷口上部公園から堂満岳第1ルンゼ		
講習日	2026年1月25日(日)	天候	雪
参加者	藤村、森本、今村、川上、藪、計5名 京都労山各会から講師含め33名の申し込みがあったが、雪の影響で数名の欠席あり		

講習報告

○雪崩捜索救助の流れの説明

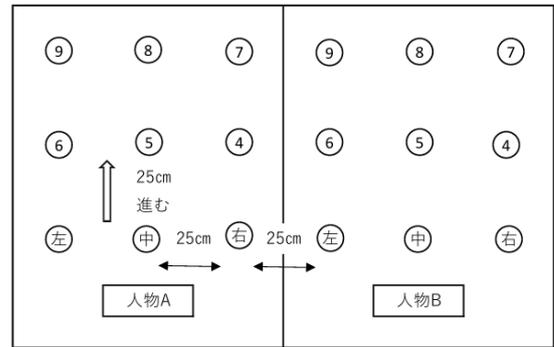
<初動>安全を確かめる。<シグナルサーチ>ビーコンをサーチモードに切り替え消失点から下方にジグザグに早足で移動すると同時に<残留物サーチ>を行う。<コースサーチ>遭難者のビーコンの信号を補足したら、ビーコンの位置を腰あたりに固定してゆっくり進む(10mから3mまで)。<ファインサーチ>十字に進み一番近い距離で埋没場所を特定する。

<プローブ>ゾンデ棒をらせん状に刺し埋没位置を確定する。<掘り出し>下側からショベルで素早く掘り出す。<応急手当><搬出>

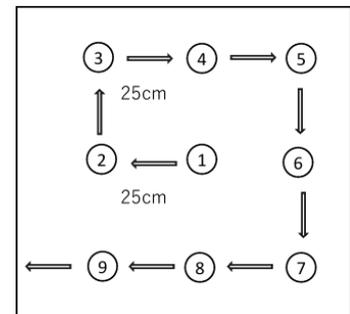
○プローブ(ゾンデ棒)訓練

プローブは最低3mの長さが必要だが、コンパクトで軽く持ち運びしやすくなっている。また遭難者に近いことを示すため、先端の50センチが色分けしてあるもの、物差しのようにメートルセンチ表記のあるもの等がある

ビーコンなしの雪崩埋没者の捜索は横1列に並び、「右」「真ん中」「左」の号令に合わせて雪面(地面)に対して垂直に刺していく。右図のように人物Aの右、中、左の間隔は25cmで、3ヶ所終えたら、25cm前に移動して繰り返す。また右が人物Bの左と25cmの間隔になるよう、人物間の距離も調整する。



ビーコンで埋没場所を特定した場合は、そこから螺旋上にプローブを刺していく。(右図のように①から25cm間隔で) ヒットすればビーコンを刺したままで掘り出し作業にかかる。(掘り出し訓練は実施していない)



○ビーコン訓練

雪崩が起きたという設定で、ビーコンは少し離れた場所に隠してある。デブリと消失点の方角を示された参加者は、ビーコンをサーチモードに切り替え、早足で向かっていく。強い発信信号を捕らえると腰の位置に固定してゆっくりと近づいていく。距離が近づいて、また増えるとゆっくり戻り、十字に移動し見つけることができた。

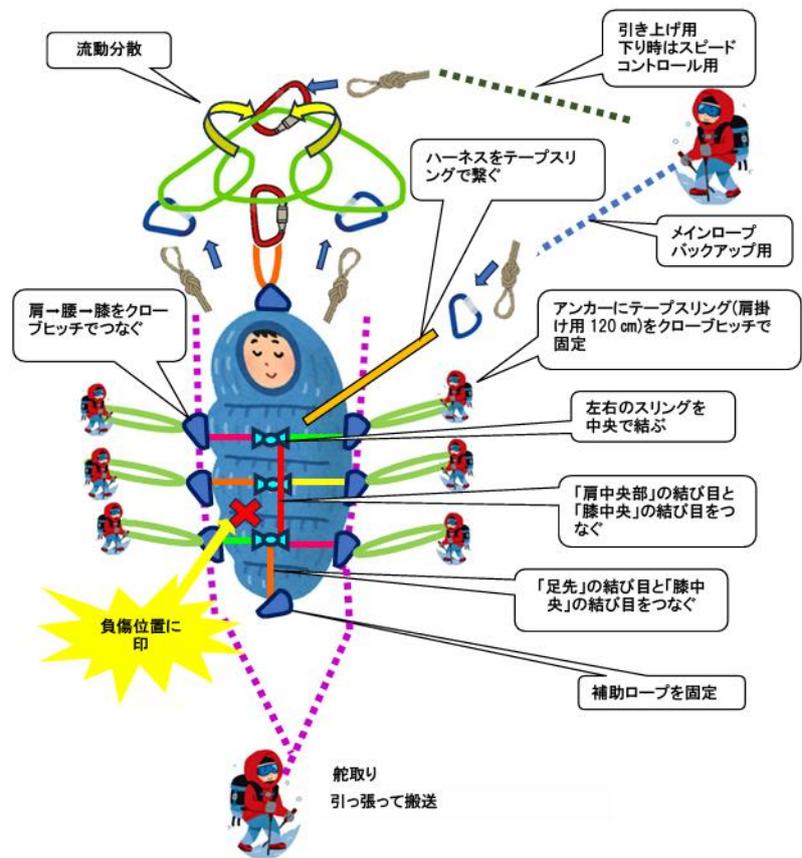
入山時のビーコン確認訓練

まずリーダーがセンドモードにし、他のメンバはサーチモードで5メートルほど離れた場所からリーダーに近づいて行く。ビーコンの表示距離がだんだん減っていくのを確認する。次にリーダーがサーチモードにし、メンバはセンドモードでリーダーの横を歩いて登山道に入っていく。リーダーは信号が送られてくるのを確認する。最後にリーダーのスイッチオン、センドモード切替を確認して入山する。

○梱包搬送訓練

初めに負傷者を梱包するデモを見学し、2班それぞれで梱包から搬送を行う。実際の搬送時は、あるもので工夫するが、今日は用意された道具を使用した。 <イラスト提供・福知山山の会>

ツェルト、銀マット、ザックの順に敷き、負傷者を梱包する。雨具などを枕に、足にはスコップを敷いて靴をスリングで縛る。ツェルトの内側にカラビナを肩、腰、膝の3ヶ所の両サイド下側に置き外側からスリングを使いクローブヒッチで縛る。両側のスリングを体の上で本結び梱包する。このカラビナ片側3ヶ所づつを支点にして、20m細引きで前後のかじ取り、ストッパーを行う。また悪路を避け負傷者を担ぐ時にもこの6ヶ所のカラビナ支点にさらにスリングを使い6人で持ち上げる。メインロープで安全を確保しながら、堂満第1ルンゼから大山口手前でのタイムアップまで搬送した。



※負傷者役のスタッフが梱包終了後に寒さによる身体の震えがしばらく続いた。さらにダウンを着て解散場所まで歩くことで回復したが、保温にはより注意が必要だった。

<感想文>

今村

京都労山遭難対策部の積雪期搬出訓練に初参加しました。私は毎年雪山に行くことを楽しみにしていますが、万が一の時の対処法を知らずに登るのは無責任だと思い、今回は、山の会のお楽しみ新春登山を振り切って、こちらに参加することにしました。

この日関西は大寒波が居座る日との予報あり、大雪の可能性大。でも担当者から雨でも雪でも決行します！との連絡があり、これは覚悟して行かなければ！と服装選びにも気合いが入りました。天気予報では現地はマイナス気温。実際、朝からずっと雪は降っており、ですが風が無く体感的には助かりました。

まず、午前の訓練では、雪崩で埋没者のいる場所の特定をするためにビーコンを使い捜索したのですがこれは使い方に慣れておく必要があると感じました。方向を特定するのはなかなか難しかったです。また、埋没者がどのくらい下に埋もれているのか、プローブを雪面に刺して特定する実技は何人か並んで、皆で掛け声をかけながら捜索しました。

午後からは堂満第一ルンゼ正面谷付近に移動し、けが人を梱包して搬出する訓練です。ここでは、ロープワークが必要となります。事前に練習しておけばよかったと反省。ケガ人役の生身の人を保護しながら雪の登山道を運搬、下山するリアルな訓練でした。

また、積雪期の搬出訓練では原則アイゼン使用不可という意味がわかりました。

救助者と救護される人が搬出時、アイゼンの刃で更に怪我をしないため。また、人を急斜面で下ろすためには相当の体力、瞬時の判断力が必要で、雪の急斜面で横たわった人を下ろす時は、救助者も滑ったり、足が縛れたり雪面を歩く技術が相当必要となります。それらの全ての訓練が含まれているのです。

ですがでもどんなに寒くても正面谷に行く時の約1時間の雪山登山は40cmほど積もった粉雪登山道をツボ足でザクザク歩く時間はとても楽しくよい訓練になりました。

このような経験をさせてもらえた京都労山遭難対策部の皆様に感謝です。本当に頼もしい存在と実感しました。

